

拠点形成研究交流報告： ワーゲニンゲン大学訪問と 共同研究打合せ・実施

食と農免疫国際教育研究センターおよび、本研究拠点形成事業のメンバーである分子生物学分野の原田昌彦が、2019年10月22-23日、および27日-28日にオランダ・ワーゲニンゲン大学の Prof. Geert Wiegertjes の研究室を訪問して、共同研究についての打合せと実施を行いました。

Prof. Wiegertjes と原田は、魚類免疫機構のエピジェネティック制御に関する共同研究を実施しており、今回は、共同研究の実施方針を確認すると共に、魚の細胞に加えて様々なモデル細胞を合わせて用いることで、共同研究で見いだした現象の一般性を確認する実験などについても検討を行いました。さらに、Prof. Wiegertjes の研究室に導入された機器を共同研究に利用する可能性についても、実際に装置を使用しながら検討を行い、普段のメールのやり取りだけでは期待できないような共同研究の進捗が得られました。さらに、原田の研究室のエピジェネティック研究手法を、Prof. Wiegertjes の研究室に導入するための方策



について具体的な手順を確認しました。

部門ヘッドに就任した際に、グループメンバーから贈られたパネルの前で。パネルには、様々な魚（パロディ含む）がユーモアを交えて紹介されている。



Prof. Wiegertjes は、今年の5月から、Aquaculture and Fisheries Group のヘッドに就任し、これまで自身が進めてきた研究グループに加えて、多くの研究グループをまとめる立場となりました。前回の訪問の際に、東北大学青葉山新キャンパスの農学研究科の近くに設置される次世代放射光施設について Wageningen 大学で説明をしましたが、これらのグループの中には放射光技術の活用に興味を持つメンバーも多いとのこと、今後、Wageningen 大学と東北大学のネットワーク形成に、次世代放射光施設も利用していく方針を確認しました。

このような実り多い滞在をサポートいただいた JSPS 研究拠点形成事業に感謝いたします。

原田昌彦
(食と農免疫国際教育研究センター・副センター長)

秋も深まったワーゲニンゲン大学キャンパス。以前、夏や春に訪問した時とは違った表情で、既に厚いコートを着ている学生も多かった。